

ありば

VOL. **44**
2022

「バリア」の逆は「ありば」。
バリアフリーな社会を築くために、本誌はバリア反対!の意を込めて、「ありば」というタイトルにしました。
みんなに住みよいまちを、みんなで築くために。
人と人のバリアフリーコミュニケーションをご紹介します広報誌、それが「ありば」です。



表紙/車イスバスケットボール 谷口 拓磨 (たにぐち たくま) さんの作品

第40回肢体不自由児・者の美術展で全国肢体不自由特別支援学校PTA連合賞を受賞した鹿児島県養護学校高等部に通う谷口拓磨さん(17歳)。本作品は、「私の好きなもの」というテーマで、小学校4年生から打ち込んでいる車椅子バスケットボールを躍動感あふれるタッチで描き上げました。「初めて出場した大会で観客がたくさんいる中、プレッシャーを感じながらプレーしている自分を描きました。人物の迫力を出すために、姿をはっきりと大きく描いています。」と話す谷口さんは、元々、絵を描くことに苦手意識があったそうですが、「今回の受賞を機に、自分の絵に自信をもつことができました。高校卒業後は絵を描く機会は少なくなりますが、いろいろな絵を見ることを楽しみたいです。」とのこと。また、「車椅子バスケットボールでパラリンピックに出場し、金メダルを取りたい。」と今後の目標についても話してくれました。



CONTENTS

【特集】

鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター
～アートを通じて色んな人とつながろう～

PAGE **1**

ありばヒューマンドキュメント

原良田 龍彦さん

PAGE **3**

ありば通信

社会福祉法人 白鳩会

PAGE **4**

ハードルを越えて

日高 優翔さん

PAGE **5**

バリアフリー最前線

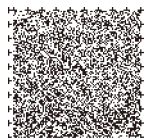
センターラス天文館
鹿児島県身障者用駐車場利用証制度

PAGE **6**

鹿児島県からのお知らせ

- ・ヘルプマーク・ヘルプカード
- ・アルコール関連問題啓発習慣
- ・自殺に係わる相談窓口の案内

PAGE **7**



令和4年7月31日にセンター開所式を行いました



ゆうかり学園の利用者等による和太鼓演奏を披露



看板の除幕（社会福祉法人ゆうかり 水理事長と塩田知事）



塩田知事の挨拶



看板のロゴを制作した上山滉平さん

○センターの運営を行う塩満創センター長にお聞きしました。

センターでは、福祉という分野だけではなく、ひとりの作家、ひとつの作品として多くの方々
が活躍し、楽しめるように“地域の交流の場”をつくっていきたくと思います。

これまで鹿児島市内で培ってきた様々なネットワーク（つながり）を活かしながら、鹿児島
県の特性を発揮できるようなチャレンジ（試み）をしていけたらと考えております。

障害の有無に関係なく、活動の機会を得られず、埋もれてしまっている才能はたくさんある
と思います。芸術文化を楽しみたい方にとって、いつでも相談で
きる場をつくり、地域の方やイベントなどに係わる皆さんが笑顔
になれるようなセンターを作っていきたいと思っていますので、
お気軽にお問い合わせいただければ幸いです。

センターでは、毎月ワークショップを開催し、11月にはバリア
フリー演劇、12月には作品展を開催予定です。開催情報はセ
ンターのHPなどでご確認ください。

まだ開所したばかりのセンターですので、枠に
囚われないようにしながら、皆さんと一緒に“芸
術文化”を楽しんでいきたいと思ひます。



塩満 創センター長

鹿児島県障害者芸術文化活動支援センターとは

令和4年7月31日に、芸術文化活動を行う障害者やその家族、福祉施設、支援団体等を支援する拠点として、芸術文化の享受、多様な活動の展開など、障害者の自立と社会参加を促進するために開所いたしました。
実施団体の職員が「絵画や作品を発表したい」「芸術文化活動のヒントが欲しい」等の相談に応じます。お気軽にご相談ください。

事業内容

- 1. 事業所等に対する相談支援**
障害者やその家族、事業所等から支援方法、権利の保護、作品の販売等に関する相談を受け付け、アドバイスや専門家の紹介等を行います。
- 2. 芸術文化活動を支援する人材の育成等**
芸術文化活動の支援方法、著作権等の権利保護、障害特性への理解等に関する研修や現場における活動体験等を行い、人材の育成及び確保を図ります。
- 3. 関係者のネットワークづくり**
芸術文化活動を支える人材が連携・協力し、多角的な面から支援の在り方が考えられるよう、様々な関係者・団体等とのネットワークづくりを行います。
- 4. 展覧会等の開催**
障害者の活躍の場を拓げ、地域の様々な人々との交流が促進されるよう、障害者の芸術文化活動に関する作品を展示する展覧会等を開催します。
- 5. 情報収集・発信**
展示会や公演などのイベント情報、芸術文化活動の実態把握、作品・作者に関する発掘など、県内の芸術文化活動についての情報を収集・発信します。

相談無料

080-8379-7852

kac@yuukari-s.jp 099-813-7175

学芸員及び弁護士による専門相談も実施します。（電話又は対面 ※リモート活用他）

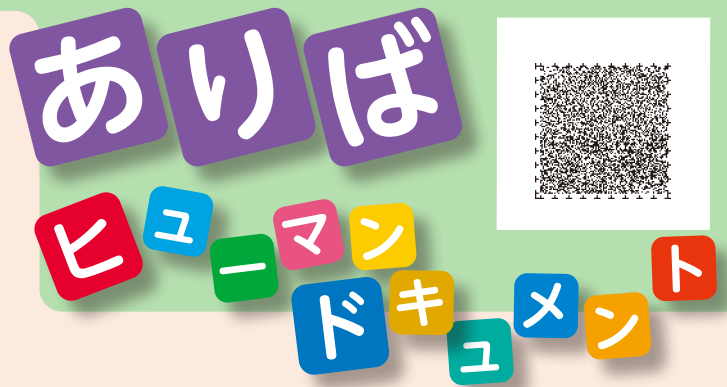
住所：〒890-0014 鹿児島市草牟田1丁目8-7（地域生活支援拠点ゆうかり内）
実施団体：社会福祉法人ゆうかり
HP：http://yuukari-s.jp/kac/

アートを通じて色んな人とつながろう

鹿児島県障害者芸術文化活動支援センターについて



「職場やサッカーにおいても、まずは挨拶をすることを心掛けています。人とのコミュニケーションはどんな時も挨拶が大事ですよ。」と素敵な笑顔でお話いただく原良田さん。



鹿児島ユナイテッド FC フェューチャーズ主将
JFFID 日本代表

【原良田 龍彦】さん

2019年に発足した知的障害者サッカーチーム『鹿児島ユナイテッドFCフェューチャーズ』は、『鹿児島をもっとひとつに』をクラブスローガンに、現在、主将の原良田龍彦さんら約25名の選手が所属し、練習や対外試合に取り組んでいます。

原良田さんがクラブに加入したのは中学校三年生の時。現チームの前身であるFID鹿児島島の頃からです。「サッカーを始めたのは小学生の時、友達に誘われたことがきっかけでした。中学校のころは学校の部活とクラブの両立をしていました。サッカーのおかげで人とのつながりをたくさん持てたと思っています」とお話しくださいました。

原良田さんは現在、サッカーを続けながら『鹿児島温泉 時之栖』で勤務しています。「働きながらサッカーができる環境にとても感謝しています。仕事は主に番台での接客や、浴室などの清掃です。お客様に『いい湯だった。ありがと。』と声を掛けていただくと、仕事のやりがいを感じてもっと頑張ろうと思えます」と話す原良田さんに

温泉のおすすめを聞いたところ、「サウナですね！疲れもとれるのでお客様にもお勧めしています」と笑顔でお応えいただきました。

「もうひとつのW杯」へ向けて

Virtusサッカー世界選手権2022が今年の6月に開催決定しました。この大会は、もうひとつのW杯とも呼ばれており、日本は2014年の大会でベスト4という輝かしい成績を残しています。

原良田さんの日本代表選出は今回で2回目。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今年の世界大会はやむなく中止となりました。「目標に掲げていた大会だったので悔しさはありましたが、プラスに捉え、次へ」という気持ちに切り替えました。その時にいただいた話が、フランス国際親善マッチです。残念ながら自分の持ち味を出せないまま試合は終わってしまいました。ですが、海外選手と試合が出来る機会はありません。日本では感じられないスピード感やパワーを感じる事が

できました。上手いかない時もあります。この経験を糧に、自分が今なにをすべきか考え成長していきたいです」と力強くお話しくださいました。

原良田さんは、4年後の世界選手権の代表メンバーに選出され、日本の勝利に貢献することを目標の一つに掲げつつ、「まずは、フェューチャーズの主将としてチームを引っ張っていきたいです。質の良いトレーニングをして、鹿児島はやはり強い！鹿児島が一番だ！と言われるチームにしていきたい」と決意を述べていました。

サッカーも仕事も何事にも実直な原良田さん。ピッチ上での今後の活躍が楽しみです。



©KAGOSHIMA UNITED FC

10月に栃木県で行われる全国障害者スポーツ大会に、九州ブロックの予選会を勝ち抜き、鹿児島県代表選手として出場します。



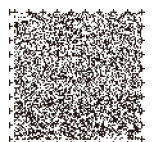
お客様に快適に過ごしていただくため、掃除は隅々まで丁寧におこなうところを大切にしています。

とまのすみか
鹿児島温泉 時之栖

〒890-0034

鹿児島県鹿児島市田上6丁目1-6

TEL: 099-256-1126



「過疎地域の光」となれるよう「農福連携」の取組で共にがんばりましょう

白鳩会は開設49年になります。創立者である前理事長中村隆重の実弟が障害で定職を持つことができず、その弟を心配する母親を「何とかしてあげたい」「いっしょに働ける場所づくり」をしよう」との思いで立ち上げました。当初は、障害を持つ方が3年後に地域社会で自立した生活を送ることを目標にしていましましたが、自立のためには壁が多く、限界を感じました。そこで、「共汗共育」「障害者も自らの努力によって自立できる」という理念のもと、生活を支える「福祉」と彼らが働く「農業」で自立を目指す取組を始めました。

49年の間に支援方法も変わり、現在は利用者の意思を尊重した意思決定支援に取り組んでいます。また、利用者の適性を見極めながら、「得意」を活かせる作業の選択とサポートに心がけています。併設の花の木農場は「福祉・農業・観光を結びつけながら過疎化に悩む地域おこし」を目指して開場し、農場内は農産物・加工品生産とともに、観光客にも楽しんでいただけるよ

しらはとかい
白鳩会

社会福祉法人



自家養豚場の白豚を使用した、メルシーハム・ソーセージや、ピーナッツ豆腐やお惣菜、ジェラートなど農場で出来た野菜や果物の加工品も人気です。



命のつながりを感じながら、めいっぱい愛情をそそいで育てます。



緑と青の大自然の中にひろがる花の木農場。つくる喜び、語る楽しさでいっぱいです。

う農場レストランでの飲食提供や彫刻作品の展示などを行っています。

花の木農場では、職員が作業にどれだけ真剣に取り組んでいるかを利用者に見せること、背中を語る「こと」が重要だと考えています。利用者の「農作業に取り組み、工賃をもらって、貯金もできました。祖母の頼みで実家のお風呂の改装費を出してあげられたとき、やっと孫らしいことができた嬉しくなり、給料をもらうことの充実感を初めて感じました」などの声をいただくと、これまでの苦勞も吹き飛んでしまいます。

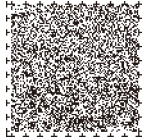
花の木農場がある南大隅町は過疎化、高齢化という大きな課題に直面していますが、ここで地域の農業を支える役割を担いたいと考えています。昨年、大隅地域で「ノウフクコンソーシアム」が設立され、地域の企業・農家と福祉事業所が関係性を築きやすい環境が整いつつあります。このような取組を推進し、大隅から県内、全国へ向けて、さらに農福連携の取組を発信することができたらと思います。農福連携を通していろいろなつながりができ、利用者・職員の「見える景色」に広がりが出てくることにやりがいを感じています。

白鳩会・花の木農場は、ここでの生活、働きを通して、自分の、そして相手の成長を感じることが出来る場所です。是非一度、農場に足を運んでみてください。生き生きとした利用者の表情を見て、文章や写真では感じるの出来ない、何かを感じていただければと思います。

(常務理事 中村邦子)

社会福祉法人 白鳩会
〒893-2501
鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北 2105
TEL : 0994-24-2517 FAX : 0994-24-2626
HP : <https://shirahatokai.jp/>





リレーエッセイ

ハードルを越えて

40

日高 優翔さん
(屋久島町)

僕は、大好きな屋久島にある木工所「ウッドショップ木こり」で働いています。中学校を卒業後も屋久島内の高校へ進学を希望していましたが、当時は島内に養護学校はありませんでした。そこで、先生に相談し、屋久島に養護学校を作るよう働きかけました。その結果、学校はできませんでしたが、屋久島高校内に中種子養護学校の支援教室ができました。翌年には後輩が5人入学してきて、とても嬉しかったです。

高校卒業後は木工を学ぶために、先生の紹介で鹿児島県障害者職業能力開発校に進学しました。ある日、先生から「木工でアビリンピックに出場してみないか」と声を掛けられました。最初は、出場することに少し前向きではありませんでした。でも、練習を重ねるうちに自信が付き、気付いた頃には「優勝したい!」と思うようになっていました。後から先生に聞いた話では、開発校のオープンスクールで家具作りの体験をした時から「木工の素質がある!」と褒められていたみたいです。父の趣味がDIYで、僕も子どものころからものづくりに慣れ親しんでいたおかげだと思います。

本番の課題は、5時間で「蓋付き小箱」を製作するというものです。蓋の小口を合わせる作業には苦戦しましたが、練習より上手くできました。大きな金メダルを獲得することも初めてだったので、とても嬉しかったです。普通なら経験できないことができたので、アビリンピックに出場できて本当に良かったです。

僕は、木工に特化して更に学ぶために、さつま町の高等技術専門学校へ通いたいと思っています。アビリンピックで金賞を取った人は、世界大会へ出場することができます。ただ、屋久島では練習する場所がなく、道具をそろえたり、刃物を研いだりすることもできません。開発校の先生からも「世界大会出場に向けて練習できる場所を確保した方がいい」と勧めてもらったので、今は専門学校へ通うために、働いてお金を貯めたいです。

木工の仕事だけではなく、バレーボールも頑張っています。今は鹿児島県の「排球かごしま」に所属していて、熊毛郡の代表選手でもあるので、2023年のかごしま大会に向けて日々努力しています。仕事もバレーボールも大好きなことに引き合えるこの環境に感謝しながら、これからも頑張りたいです。



主にキーホルダーやボールペンなど屋久杉を使用した商品を作っています。木の魅力は自分が思うような形に加工できることです。



代表 鹿島さん「優翔君は実直なので目標に向かって凄く伸びると思います。いいものしかもっていない素敵な子です。」



psos 社会福祉法人 慶生会

2023. 10. 29

谷山駅横に

地域交流センターOPEN

誰でも参加・おそび・楽しみ・ほこせる

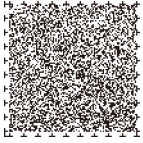
コンセプトは「ごちゃまぜの優しい街」

求人詳細 建物名特公開 ☆表彰等有☆ インスタ LINE

お問い合わせ 管理課：099-263-3665

広告





KAGOSHIMA

バリアフリー最前線

Barrier Free-Saizensen

鹿児島島のいろいろな建物や施設、あるいは人の心の中にあるバリアが取り払われています。一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。



広々としたキッズトイレには、調乳ができるお湯・流し台・おむつ交換ベッド・専用ダストボックスを完備



図書館にはテーブル席やソファ席が設けられ、ゆったり過ごせる空間となっている



施設内に設置されている身体障害者駐車場をご利用の際にはお問い合わせください

●センターラス天文館は、ヒト・モノ・コトが行き交う場所を目指し、鹿児島島の新たなランドマークとして令和4年4月に誕生しました。施設の目の前には、繁華街の中心に位置する天文館電停があり、身体障害者補助犬の同伴も出来るため、障害をお持ちの方も気軽に立ち寄ることが出来ます(ペットは入館禁止)。

施設には、衣類・雑貨店や飲食店はもちろん、鹿児島市立図書館も併設されており、1日中施設内

で過ごすことが出来ます。特に図書館は、老若男女問わず多くの人々が利用する人気スポットとなっており、幅の広い通路が車椅子でのスムーズな移動を可能にしています。ゆったりとした空間で読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。

上階にはホテル・多目的ホールもあり、観光からビジネスまで使用方法は多岐にわたります。多目的ホールは最大300名収容可能であり、椅子・テーブルを自由に

配置できるので、出席者に合わせ自由にレイアウトできます。多目的トイレには介助用ベッド(ユニバーサルシート)の設備があり、介助する人・される人、双方が安心して利用することが出来ます。

障害の有無にかかわらず、全ての方が安心して集える憩いの場「テラス」として、天文館地区を訪れる多くの人々の利用が期待されます。

センターラス天文館

(鹿児島市)

鹿児島市千日町1-1
TEL 099-221-1001
営業時間 10:00 ~ 20:00
レストラン 11:00 ~ 23:00

※一部営業が異なる店舗もございます。
※営業時間は予告なく変更になる場合がございます。



正面入口は段差を無くし、なだらかな傾斜となっている

鹿児島県身障者用駐車場利用証制度 (パーキングパーミット制度) について



左の表示のある身障者用駐車場は、県の発行した利用証(基準に該当する方に交付されます。)がないと使用することができません。

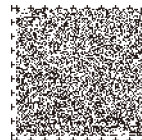
車の乗り降りのためにドアを全開にしなければならない方、歩行困難によりできるだけ建物に近い位置に駐車を必要としている方など、この駐車スペースを本当に必要としている方が利用できるよう鹿児島県身障者用駐車場利用証制度への協力・理解をお願いします。

本制度の対象となる方で利用証をお持ちでない方は最寄りの窓口(県庁障害者支援室、地域振興局・支庁・事務所、ハートピアかごしま)で申請くださるようお願いいたします。

問い合わせ先 県庁障害福祉課障害者支援室地域生活支援係
TEL 099-286-2746 FAX 099-286-5558



鹿児島県からのお知らせ



ヘルプマーク・ヘルプカードをご存じですか

県では、義足を使用している方や、内部障害、難病の方など、外見から援助等が必要なことが分からない方々を対象に、「ストラップ型のヘルプマーク」、「ヘルプカード」を配布しています。

ヘルプマーク・ヘルプカードを持っている方がお困りのようであれば、「どうしましたか?」「何かお困りですか?」と声をかけていただき、できる範囲での手助けをお願いします。

マーク及びカードの配布は、お住まいの市町村のほか、県庁障害者支援室、地域振興局・支庁、ハートピアがごしまにて行っています。また、郵送での配布も行っておりますので、詳しくは県のホームページをご覧ください。

【問合せ先】 鹿児島県障害福祉課障害者支援室 電話：099 - 286 - 2746

ひとりで悩まないで ～自殺予防のために～

最新の人口動態統計(速報値)によると、令和3年の自殺者数は全国では約2万人、本県においても約250人の方が自ら命を絶っています。自殺の原因は複雑で、その背景には、こころや体の健康問題、経済・生活問題、家庭問題のほか、生観・価値観や地域・職場環境をはじめ、昨今では、新型コロナウイルス感染症など、様々な社会的要因が複雑に関係しています。

県内には、県自殺予防情報センター(県精神保健福祉センター内)をはじめ、最寄りの保健所や市町村などに多くの相談窓口が用意されています。また、県では、新型コロナウイルス感染症に対応した「心のケア相談専用ダイヤル」を開設しています。

悩みを抱えている方は、決して1人で悩まずに、まずは誰かに相談しましょう。

【相談窓口】

- ・新型コロナウイルス感染症に関する心のケア相談専用ダイヤル 電話：070 - 7664 - 5152
(午前9時00分～午後4時00分まで / 土日祝日も対応、年末年始12/31～1/3除く)
- ・県自殺予防情報センター 電話：099 - 228 - 9558 (午前9時00分～正午、午後1時00分～4時00分 / 月・木)
- ・県精神保健福祉センター 電話：099 - 218 - 4755 (午前8時30分～正午、午後1時00分～5時00分 / 月～金)
- ・こころの電話 電話：099 - 228 - 9566・9567 (午前9時00分～正午、午後1時00分～4時30分 / 月～金)
- ・鹿児島いのちの電話 電話：099 - 250 - 7000 (24時間 / 365日)

11月10日～16日は「アルコール関連問題啓発週間」です

お酒は、生活に豊かさや潤いを与えるものですが、不適切な飲み方は、アルコール健康障害の原因となり、体や心にも悪影響を及ぼすことがあります。

また、飲酒運転や暴力、自殺などの社会的な問題の原因になり、家族への深刻な影響を与える恐れもあります。

この機会に、飲みすぎや未成年者、妊産婦の飲酒など、不適切な飲酒によるアルコール関連問題への関心と理解を深めましょう。

厚生労働省「アルコール健康障害対策」サイト

厚労省ホームページ > 政策について > 分野別の政策一覧 > 福祉・介護 > 障害者福祉 > アルコール健康障害対策



Vol.44 令和4年9月30日発行

[感想をお寄せください]

鹿児島県くらし保健福祉部障害福祉課障害者支援室

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

TEL.099-286-2111(内線2746) FAX.099-286-5558

[E-mail]shougai@pref.kagoshima.lg.jp

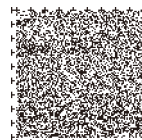
[URL]http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/syogai-syakai/machi/index.html

営利を目的とする場合を除き、この本をそのまま読むことが困難な方のために、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は上記障害福祉課へ御連絡ください。

視覚に障害を持つ方のために、本誌の点字版及び録音図書を鹿児島県視聴覚障害者情報センター(鹿児島市小野一丁目1-1 ハートピアがごしま3F TEL.099-220-5896)に備え付けてあります。

【SPコード】について

ページの隅に置かれている、四角い黒い点々を[SPコード](音声コード)といいます。この18ミリ四方の一つのSPコードの中に、日本語で約800字のテキスト情報を格納することができ、専用の読み取り機でSPコードを読み込むと、そのページの内容を音声で読み上げることができます。なお、視覚に障害のある方にもSPコードの位置が分かるように、ページの縁に切り込みを入れています。



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用